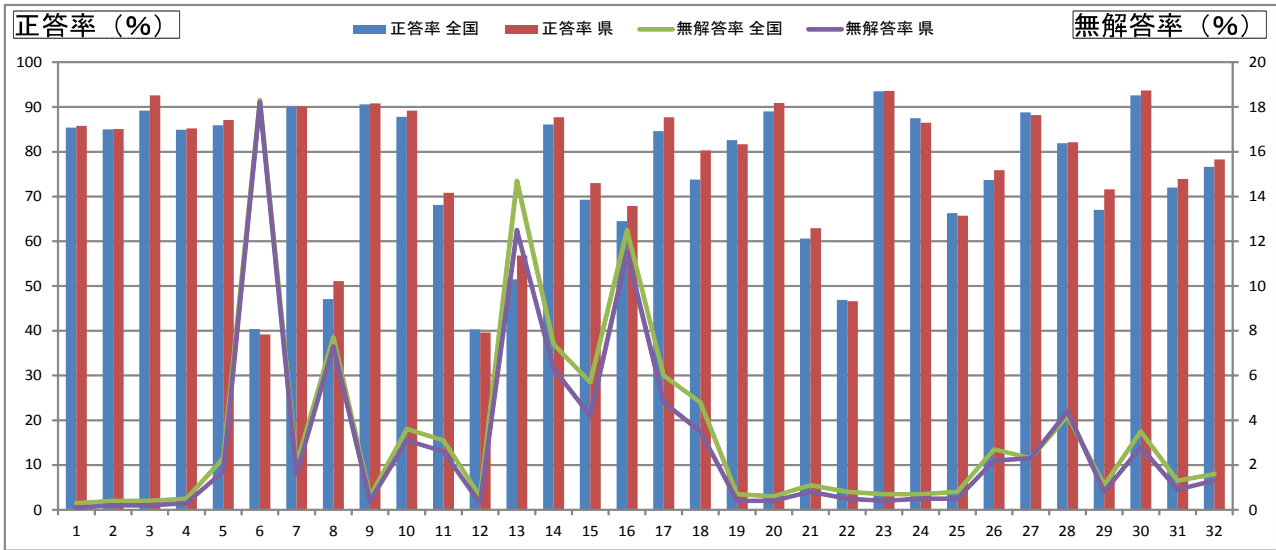


平成24年度全国学力・学習状況調査結果を授業改善に活かすために

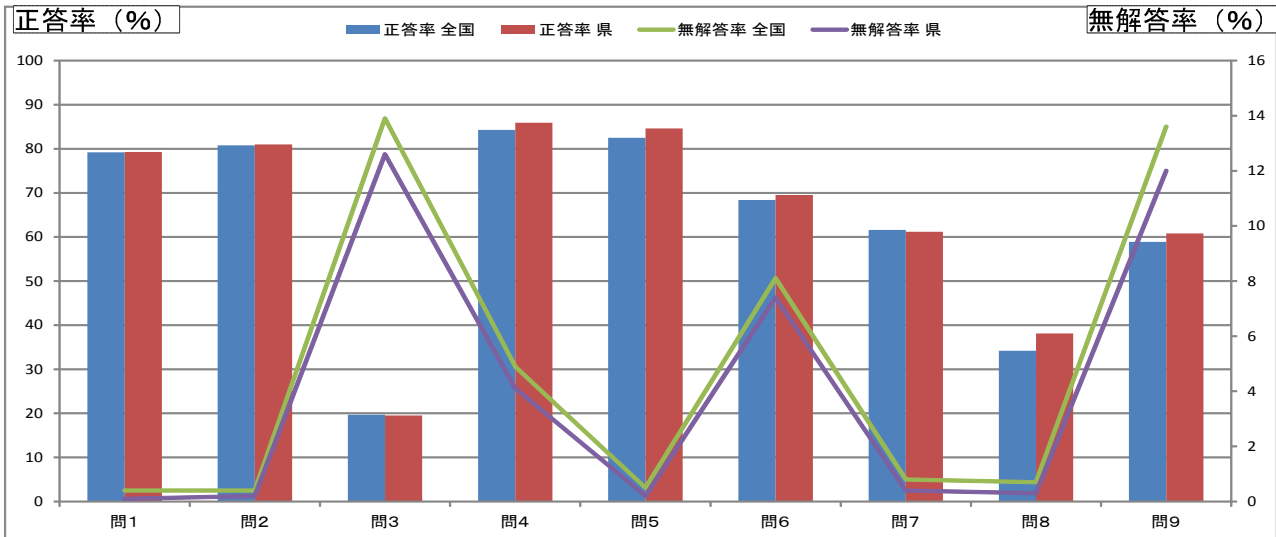
国語（中学校）

県北教育事務所

〔中学校国語 A〕 ※ 各設問ごとの正答率（棒グラフ）・無解答率（折れ線グラフ）：全国（公立）県平均比較



〔中学校国語 B〕



【結果】

- 一部定着の低い設問はあるが、漢字の読み書き、語句や語彙、言葉のきまり等、言語生活に関する基礎的・基本的な知識技能は、概ね身に付いており、全国平均も上回る傾向にある。
- 「話すこと・聞くこと」に関わる設問や相手に応じて分かりやすく書き換えたり簡易な文章や資料から読み取ったりする設問の正答率が全国平均を上回る傾向にある。
- 普段あまり使わない語句や慣用的表現、修辞法に関する知識については全体的に低い傾向にある。
- 資料（対談・朗読メモ等）の内容を的確にとらえた上で自分の考えを条件に従って記述したり、比較的長い教材文や多様な情報のある資料の中から必要な情報を選んだり関連付けたりして考察する設問の正答率が低い。

【成果と課題】

- 基礎的・基本的な知識技能の定着を図る学習に地道に取り組んできた成果が現れている。
- 実際に書いたり、話したりする場や機会が知識や技能の習得に生きている。
- 特に次の点を課題として改善を図る。
  - ・ 活用を通して、語句や語彙、言葉の決まりについての指導を引き続き充実させること。
  - ・ 話や文章のどの部分に着目したのかを明確にして、自分の考えを具体的に書く力を身に付けること。
  - ・ 長文や多様な情報のある資料を的確に読み取り、情報を選択したり関連付けたりして情報を活用して自分の考えをまとめる力を付けること。
  - ・ 学校図書館や公共の図書館を積極的に利用して、読書や学習に活かせるようにすること。

## 【今後の指導改善】：(県)

- ◇ 言語活動の充実
- ◇ 様々な資料から情報を的確にとらえる指導の工夫
- ◇ 複数の情報を関連付ける指導の工夫
- ◇ 自分の考えをまとめる指導の工夫
- ◇ 学校図書館の有効利用

### 〈県北の視点：「確かな学力」の向上のために〉

#### ◇ 「学級・学習集団づくり」「生徒指導の機能」を活かして

生徒一人一人が自分らしさを発揮し、それを互いに集団の中で認め合い、高めていくことができる基盤があってこそ授業が成果のある学びとなるのである。そこで、国語科の授業においても、効果的な言語活動への取り組みを活かし、特に次のような点を大切にして、学習の効果を高めたい。

- ・ 相手を尊重して「聴く」「話す」態度を身に付ける。
- ・ 学び合いの中で多様な「考え」のよさを互いに実感する。
- ・ 自分の考えを安心して表現し合い、吟味、検討ができる関係を醸成する。

#### ◇ 充実した授業づくりのために

※ ( )：「充実した授業づくりのために」との関連

- 効果的な言語活動を位置付けた指導構想の工夫 (意図的な習得、活用、探究の取組み)
  - 習得や活用を関連させた、単元を貫く言語活動を位置付けているか。
  - 多様な教材文や資料から情報を読み取ったり、複数の教材文による情報を比較・関連付けを図ったりして活用する多様な言語活動を工夫しているか。

例えば、「相手に効果的に伝わるように書く」ねらいで手紙文を書く場合、手紙の書き方を単に学習するのではなく、「文化祭に招待する／職場体験を依頼する」等、相手や目的を明確にした言語活動を位置付けることで、生徒にとって指導事項が習得する必要があるものになるとともに、実際に相手に出すことで「活用につながる／活用を通して習得する」ことに関連する学びとなる。また、ねらいに応じて伝える内容を「打合せメモ」と関連付けたり、「手紙文」と「通知」を比較させたりして、必要な情報を考えるさせる言語活動を工夫することも重要である。

#### ○ 自分の考えをもたせ、学び合う学習の充実

(自分の考えをもたせる場の工夫／効果的な「学び合い」による「思考の共有と吟味」)

- 自分の考えがもてるような視点を明確にした発問や指示、指導を行っているか。
- 共通点や相違点に着目し、話し合う中で自他の思考の違いやよさに気付く学び合いになっているか。

例えば、説明的文章において「構成の展開や表現の仕方について自分の考えをもつ」ことをねらいとした場合、二つの教材文の比較を取り入れ、その共通点や相違点を視点とすることで、「どちらの文の構成／表現の仕方が分かりやすいと思うか」を問い、その上で「なぜそう思うのか」と根拠・理由を問うことで自分の考えを具体化できるようにする。このように考える視点を明確にすることは、その後の学び合いの視点としても活用することができる。

#### ○ 言語環境充実の基盤としての学校図書館等の有効活用

- 学校図書館が「読書センター」「学習情報センター」としての機能を発揮しているか。
- 授業に関連させて読書や学習の意欲を高める働きかけを行っているか。

例えば、学校全体で計画的に、教科書で取り上げられている図書と同テーマや同じ作者の著作等の関連図書を学校図書館や公共の図書館から準備したり、調べ学習に必要な図書や多様な資料を計画的に整備したりすることで、多様な図書や資料を活用することができるようにする。また、課外活動や他教科の学習、日常生活と関連付けたり、自主的な調べ学習の場として活用したりして、読書の面白さや有意義さ、図書館の有用性を実感させたい。その中で、語彙を豊かにしたり、想像力等の育成を図る。更に、学校全体で環境整備を行ったり、図書館教育の全体計画を見直したりして充実を図ることが重要である。